

デバイス特集によせて

パナソニック（株） デバイス社

常務CTO 久保 実



2012年1月パナソニックグループは2018年にエレクトロニクスNo.1の「環境革新企業」の実現を目指し新たな事業体制となりました。このなかで新たに発足したデバイス社は、パナソニック、パナソニック電工、三洋電機のデバイス事業を統合して誕生した総合デバイスメーカーです。その特長は、電子材料、電子部品、半導体、記憶デバイスなどの幅広い商品の開発・製造・販売を一体で手がけることです。また、これらの商品を創出する幅広い技術をもつことにあります。デバイス社は、この特長を生かしこれまでにない新たな価値を生み出し、世界中のお客様にお届けするグローバルNo.1のデバイス企業を目指してまいります。

デバイス事業の分野では、多くの企業が専門メーカーで、おのおのの商品や技術の強みを生かし限られた領域でB to Bの事業を展開しています。一方デバイス社は、幅広い事業領域を保有し、商品や技術にとどまらずさまざまなシナジー創出の機会とその効果を最大化できるという特長があります。

デバイス社では、成長戦略の旗頭として「狙って磨く」「狙って獲る」「狙って造る」を掲げています。「狙って磨く」は、まさに、デバイス事業で最も重要な要素技術を進化させて新しい技術や商品につないでいくことです。これまでのような単なる技術を強化するプロダクトアウト的な発想ではなく、すべての活動をお客様価値向上に照準を合わせて、社会変化を先読みし、お客様が必要とされる当社の『お役立ち』を実現する要素技術を磨き上げることで

具体的には、デバイス社を支える重要な5つの要素技術（薄膜・MEMS（Micro Electro Mechanical Systems）技術、パワーマネジメント技術、基板・実装技術、電子材料技術、半導体デバイス技術）を深掘りし、徹底した進化とシナジーを創出します。また、従来の単体デバイス提案から電子材料、半導体を含んだ複数デバイスやソフトウェアさらにはアプリケーションをも含めた

デバイスソリューション提案へシフトすべく技術開発の幅を広げてまいります。

デバイス社では冒頭述べました当社ビジョン「環境革新企業」を目指し環境性能と快適・安全性能の両立が新たな市場ニーズをつくる環境対応車分野、情報インフラとエネルギーグリッド、再生可能エネルギー分野が融合する環境インフラ分野に加え、スマートフォンなどの桁違いの成長が牽引するモバイル分野の3分野を重点分野として取り組んでおります。

一方、これらの分野ではお客様の機器に対する要望が、より小型高性能へと進化しており、デバイスメーカーには個々のデバイスの高性能化はもちろんですが、デバイス固有の単機能の提供から、ターンキーソリューションの提供の要望へと変化しています。この変化は、デバイス社の幅広い要素技術、商品群のみならず、シナジーを創出し生かす絶好の機会ととらえています。わたしたちは、このシナジーを、複数の形で考えています。すなわち源泉からの電子材料、幅広い電子部品群、半導体、制御機器などを支える基盤技術をもとに、機能の統合と強い技術を融合させたダントツ性能デバイス、源泉材料・プロセスを垂直統合させたオンリーワンデバイス、キーデバイスを連携・協業させたパッケージソリューションです。今後デバイス社はグローバルにアンテナを張り巡らし、お客様起点で社会や市場の進化を先読みする技術マーケティング活動を強化します。さらに、技術開発を技術シナジーとオープンイノベーションによる技術調達により、新たな価値を創出するデバイスを俊敏に実現できるように進化させてまいります。

今回の特集では、デバイス社の幅広い事業領域の顔となるデバイス・要素技術をご紹介します。さらに、その基盤となる幅広い要素技術と創出されたシナジーの最大化により、お客様価値を最大化する事業創出を進めてまいります。本特集をご高覧いただき、忌憚のないご意見・ご指摘を頂戴できれば幸いです。